

まちづくりチャレンジ協働事業補助金実績報告書

令和7年 7月30日

NPO 法人

恵庭市市民活動センター運営協議会

理事長 川 原 淳 一 様

団体名 恵庭市民文芸の会

住 所

申請者 氏 名 会長 高 橋 正 彰

電 話

2025年5月2日付特恵活第7号をもって交付決定のあった恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業補助金に係る実績報告について、恵庭市まちづくりチャレンジ協働事業補助金交付要綱に基づき交付された補助金の交付に関する事務手続き要領第10条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 協働事業の名称 : 「硫黄島を忘れてはいけない」ノンフィクション作家 酒井聡平氏講演会
- 2 補助金交付決定額 100,000 円
- 3 補助対象事業の決算額 110,046 円
- 4 実施期間 令和7年5月1日 から令和7年7月31日 まで
- 5 添付書類
 - (1) まちづくりチャレンジ協働事業報告書（様式第13号）
 - (2) まちづくりチャレンジ協働事業補助金収支決算書（様式第14号）
 - (3) その他理事長が必要と認める書類



まちづくりチャレンジ協働事業報告書

協働事業の名称	「硫黄島を忘れてはいけない」ノンフィクション作家 酒井聡平氏講演会		
団 体 名	恵庭市民文芸の会	実施場所	恵庭市新町10番地 恵庭市民会館(2F)大会議室
担当課	教育委員会教育部社会教育課		

協働事業の実施状況 ※いつ、どこで、なにを、どうしたか記入してください。	実施日時 令和7年7月13日（日）14：00～16：10 会場 恵庭市民会館(2F)大会議室 参加人数 約60名（定員100名）※2/3は初めて聞く参加者。 広報活動 市民活動センター情報、文化協会HPに記事掲載。チラシ・ポスターは市内社会教育施設、こがねふれあいセンター、老人憩いの家、中学校、高校、大学、駅、後援団体、市民文芸広告協力企業に配布又は掲示を依頼した。（当日参加はなくても、事業PRには一定の効果があり、戦後80年の節目の年であることの啓発にもなった） その他 当日、講演会場に講師（新聞記者）がかつて恵庭に取材した新聞記事コピーを掲示し、講演の補助資料とした。
協働事業の成果 ・事業内容の成果 ・協働で取り組んだことの効果 等	団体の成果／主催団体創立50周年記念、戦後80年の節目の事業として実施したことにより、当会のPR及び戦没者を慰霊し戦争と平和について考える機会を提供できた。又、講師が著した「硫黄島上陸一」の著作は、講師が市民文芸常連投稿者との出会いが執筆の大きな動機となったことから、市民文芸誌が人と人をつなぎ、過去と現在をつなぐ媒体となったことにより、本事業が文芸誌の存在意義を高め、かつ本市の歴史教育の一端を担うことができた。なお、講演では遺骨収集作業とその後の本土帰還業務について丁寧な説明があり、遺骨収集業務への理解を深めた。 担当課の成果 市民の歴史教育の一端を担い、学習意欲に応える良い機会となった。
協働事業の実施時における役割分担	団体の役割 事業の企画・実施全般 担当課の役割 広報
次年度以降の見通しと課題	団体として 機会があれば随時同種事業を実施していきたい。 担当課として 民間の自主的な活動を支援し、生涯学習活動を促進。 共通して 生涯学習活動の具体例であり、官民連携して推進する。

※ 周知用チラシや実施時に記録した写真等を添付してください。

※ 記載欄が不足する場合は別途資料を添付しても構いません。

※ 記載欄が不足する場合は別途資料を添付しても構いません。

＊自己評価

評価欄にあてはまる数字を記入してください。

4…できた（非常にあった）

3…概ねできた（あった）

2…あまりできなかった（あまりなかった）

1…ほとんどできなかった（ほとんどなかった）

項目	評価者	評価	1や2の場合、その理由
課題や目的を共有することができたか	団体	4	
	担当課	4	
目的は達成できたか	団体	4	
	担当課	4	
計画どおり進めることができたか (事業費、実施体制、自主自立性等)	団体	4	
	担当課	4	
市民ニーズは反映されたか (不特定多数の利益、まちづくりへの寄与等)	団体	4	
	担当課	4	
互いの役割分担はしっかりできたか	団体	4	
	担当課	4	
協働で事業実施をした効果があったか	団体	4	
	担当課	4	

まちづくりチャレンジ協働事業補助金収支決算書

協働事業の名称:「硫黄島を忘れてはいけない」ノンフィクション作家 酒井聡平氏講演会

1. 収 入

(単位:円)

項 目	金 額		説 明 (積算等)
	予算	決算	
自己資金	10,000	10,046	主催団体予算
補助金	100,000	100,000	まちづくり協働事業補助金
合 計	110,000	110,046	

2. 支 出

(単位:円)

項 目	金 額		説 明 (積算等)
	予算	決算	
報償費	65,000	60,000	講師謝金60,000(交通費込み)
消耗品費	3,000	3,005	事務用消耗品
印刷製本費	23,000	25,190	チラシ、ポスター、会議資料等印刷代
食糧費	5,000	5,044	講師・スタッフ弁当代(補助対象外)
通信費	7,000	5,270	チラシ送付、事務連絡郵便代
会場使用料	7,000	11,537	市民会館大会議室・小会議室使用料、備品使用料
合 計	110,000	110,046	

※支出証拠書類等の写しを添付してください。



